

1 松露庵

1 施設概要

- 施設名 : 松露庵
- 施設管理者 : 武蔵野文化事業団
- 所在地 : 武蔵野市桜堤 1 - 4 - 22
- 開館年月日 : 平成15年4月5日 (16年経過)
- 休館日 : 水曜日 (祝日の場合は翌開館日)

- 開館時間 : 午前9時00分～午後5時00分
(9:00～12:00/13:00～17:00)
- 保有機能 : 茶室 (広間6畳、8畳、小間3畳台目)
- 人員体制 : 受付1

【所在地】
武蔵境駅から徒歩15分

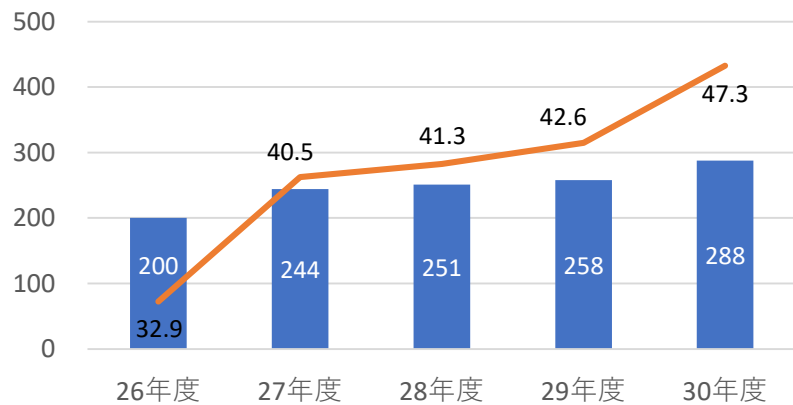


2 施設設置の経緯

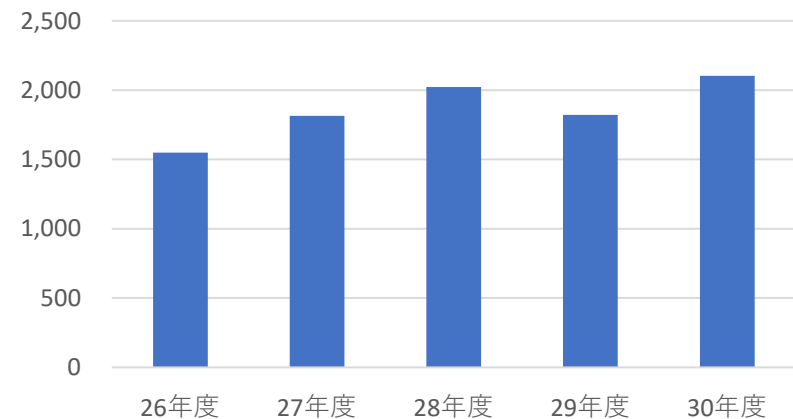
- 宮内庁御用達のたんす商・古瀬夫妻の別荘を、市が敷地事買い取り、市立公園内の建物として開放していた。
- 平成15年に、市が改装し、茶室「松露庵」としてリニューアルオープン。

3 施設の利用状況

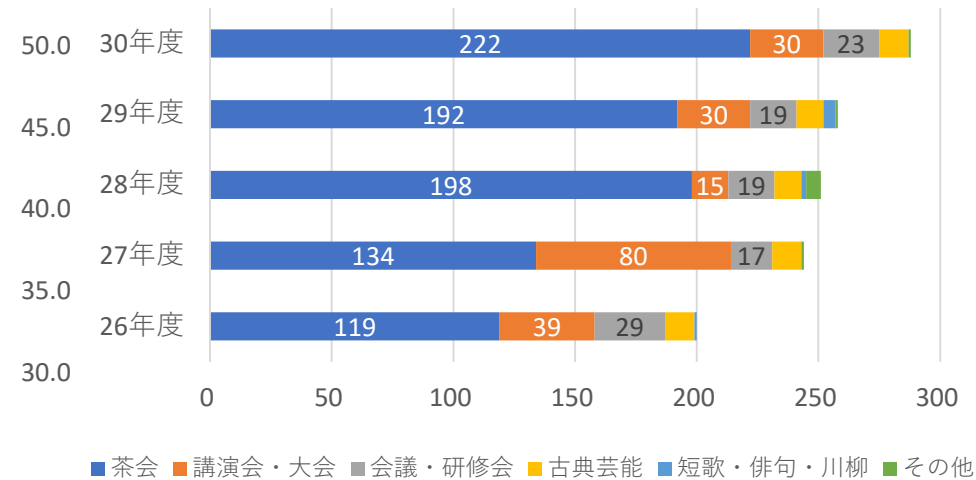
利用件数、利用率の推移



利用者数の推移



目的別利用件数



4 主な実施事業

■文化事業団主催事業

＜松露の「茶の湯」＞

- 武蔵野市茶道連盟との共催。
- 1日4回のうち1回を、初めて茶会に参加する方を対象に、客の作法等の解説付きで実施。

＜茶道教室＞

- 親子茶道体験教室や初めての茶道教室などを実施。
- 初めての茶道教室は全9回の教室で、薄茶の点て方、客の作法等の基本を学ぶ、大人のための3か月集中コース。

＜松露寄席＞

- 若手落語家の独演会として、限定35名の座布団席で開催。
- 平成21年11月に初回実施以降、おおむね年間6本程度実施しており、令和元年度で60回を超える。

□その他の事業

- ◆ 大学のサークルなども含め、新規利用団体が散見され、利用率は漸増している。

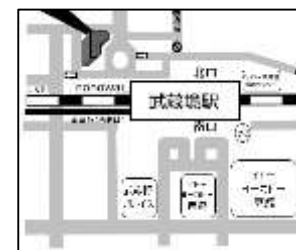
2 武蔵野スイングホール

1 施設概要

- 施設名 : 武蔵野スイングホール
- 施設管理者 : 武蔵野文化事業団
- 所在地 : 武蔵野市境2-14-1
- 開館年月日 : 平成8年9月5日(23年経過)
- 休館日 : 月曜日(祝日の場合は、翌開館日)

- 開館時間 : 午前9時00分～午後10時
(9:00～12:00/13:00～17:00/18:00～22:00)
- 保有機能 : ホール(180席)、会議室3室、レセプションルーム
- 人員体制 : 支配人1、施設管理5、窓口スタッフ、舞台スタッフ

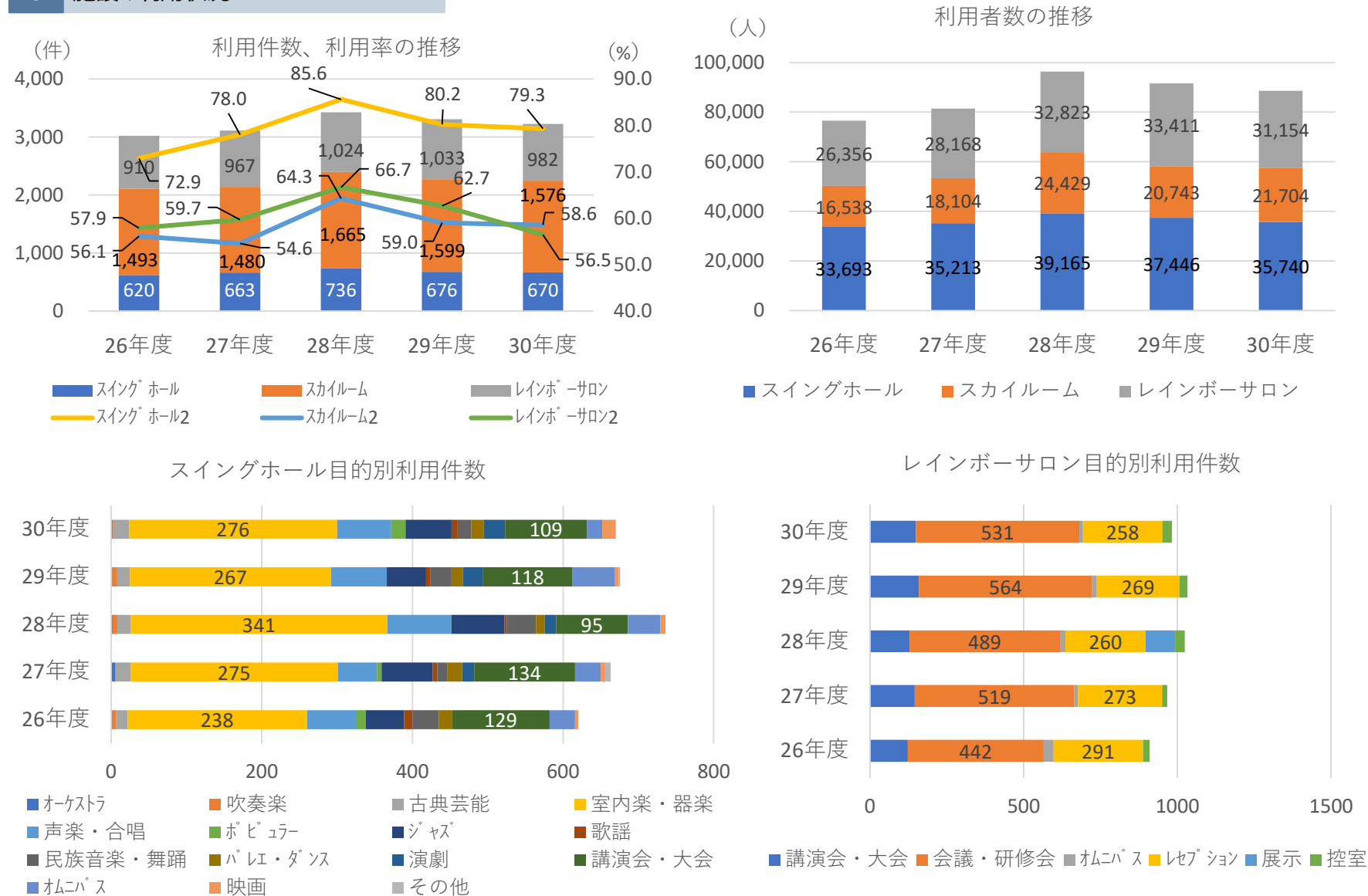
【所在地】
武蔵境駅から徒歩2分



2 施設設置の経緯

- 昭和58年7月、「武蔵境駅北口地区整備基本計画策定委員会」を設置。武蔵境駅北口地区には公共施設を誘致して文化面を充実させるとした。
- 平成2年12月、武蔵境駅北口地区第一種市街地再開発事業を都市計画決定。
- 平成7年、ビルの名称を公募(市民から167件応募)し、愛称を「スイング」に決定。
- ホールは、市民文化会館では不向きとされるジャズやロックの公演に利用されることが多い。市民の文化活動をバックアップする施設として、10階は会議や展示室に使える会議室(3室合同利用可)、11階は立食パーティーや講演会などに使えるレセプションルームとなっている。

3 施設の利用状況



4 主な実施事業

■文化事業団主催事業

<スイング寄席>

- 市にゆかりのあった落語家・古今亭右朝の紹介で始まったプログラム。現在は、三遊亭小遊三で、年2回実施。
- 公会堂で実施している武蔵野寄席より、若干、客層が若いイメージ。

<ジャズ公演>

- ステージが低く、客席と近い。観客も、アーティスト自身の盛り上がりやすい。
- プレイスや大学等に多いという立地もあり、若者向けを意識した事業の企画もしている。

■その他の事業

【ホール】

<武蔵境JAZZ SESSION>

- 令和元年度で第17回。地元のアマチュアや地域にゆかりのプロミュージシャン等が出演する音楽イベント。昼は入退場自由、夜は事前申込制(武蔵境商店会連合会・武蔵野市観光機構主催)。入場無料。

<市民会館文化祭(芸能発表会)>

- JAZZ、ゴスペル、カラオケ、ダンス、居合演舞、マジックなど、市民会館における学習成果の発表の場であり、毎年、スイングホールで実施(市教育委員会主催)。入場無料。

- ◆ 本番利用だけでなく、ピアノやヴァイオリンの練習に利用する方も見られる。
- ◆ その他、地元企業の社員による落語公演(年2回)等にも利用されるなど、駅至近の利便性などを理由に、定期的な利用が目立つ。

【スカイルーム】

- 会議室利用が多い。

【レインボーサロン】

- レセプションホールであり、民間企業の利用も多い。
- 年に1~2件は、結婚式での利用もある。

3 かたらいの道市民スペース

1 施設概要

- 施設名 : かたらいの道市民スペース
- 施設管理者 : 武蔵野文化事業団
- 所在地 : 武蔵野市中町1-11-16
- 開館年月日 : 平成22年4月3日（9年経過）
- 休館日 : 水曜日（祝日の場合は翌開館日）

- 開館時間 : 午前9時00分～午後10時00分
（9:00～12:00/13:00～17:00/18:00～22:00）
- 保有機能 : 会議室
- 人員体制 : 受付1

【所在地】
三鷹駅から徒歩5分

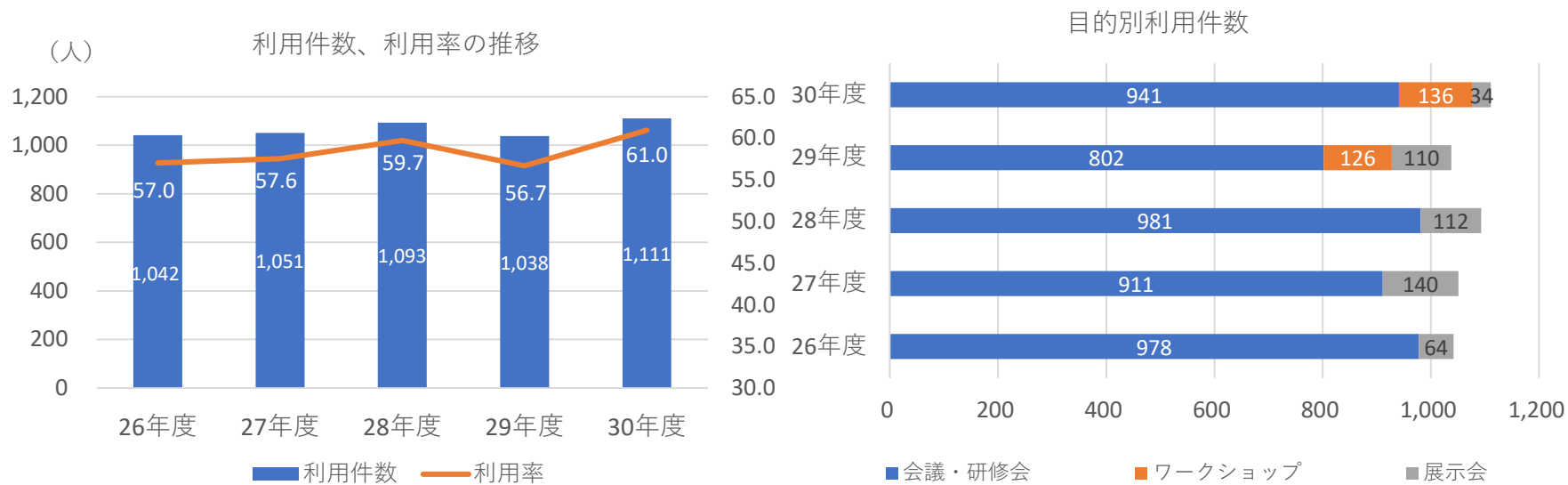


2 施設設置の経緯

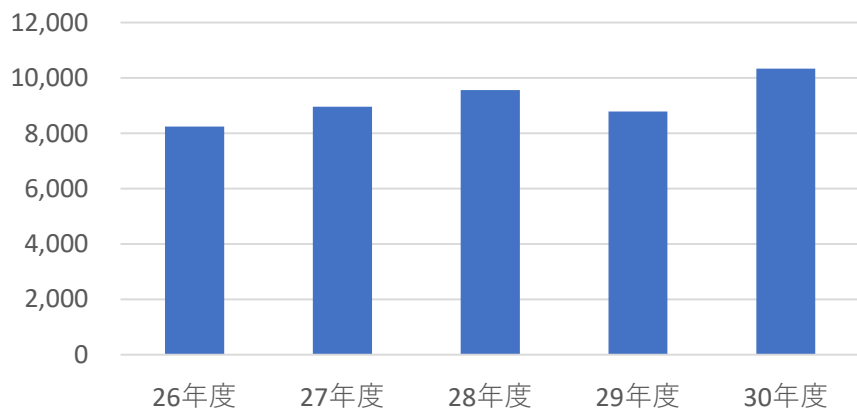
- 三鷹駅北口の駅前大型マンションの建設に際し、市に提供された公共スペースに設置された市民施設。

4 主な実施事業

3 施設の利用状況



利用者数の推移



4 武蔵野芸能劇場

1 施設概要

- 施設名 : 武蔵野芸能劇場
- 施設管理者 : 武蔵野文化事業団
- 所在地 : 武蔵野市中町 1 - 15 - 10
- 開館年月日 : 昭和59年2月9日 (35年経過)
- 休館日 : 水曜日 (祝日の場合は、翌開館日)

- 開館時間 : 午前10時00分～午後11時
(10:00～12:00/13:00～17:00/18:00～23:00)
- 保有機能 : 小劇場 (156席)、小ホール (200㎡)
- 人員体制 : 支配人 1、施設管理 3、窓口スタッフ、舞台スタッフ

【所在地】
三鷹駅から徒歩 1分



2 施設設置の経緯

- 昭和53年5月、糸あやつり人形劇団「結城座」(昭和23年～吉祥寺本町、都無形文化財)が、保健所から公演中止の通知を受ける。同年9月、翌年9月に、2回の請願が提出され、全会一致で採択(2回目は1万人以上の市民による)。
- 昭和56年、「公有地拡大の推進に関する法律」を適用し、社会教育施設、市民文化施設を建設するための用地として、現在所在地を市が取得。
- 昭和57年、庁内プロジェクトチームにより、基本方針がまとめられる(結城座の優先利用180日、中割れ足場の設置など)。
- 平成元年、「結城座」は市外へ移転し、芸能劇場の利用は減少。現在は、年1～2回の公演。

4 主な実施事業

■文化事業団主催事業

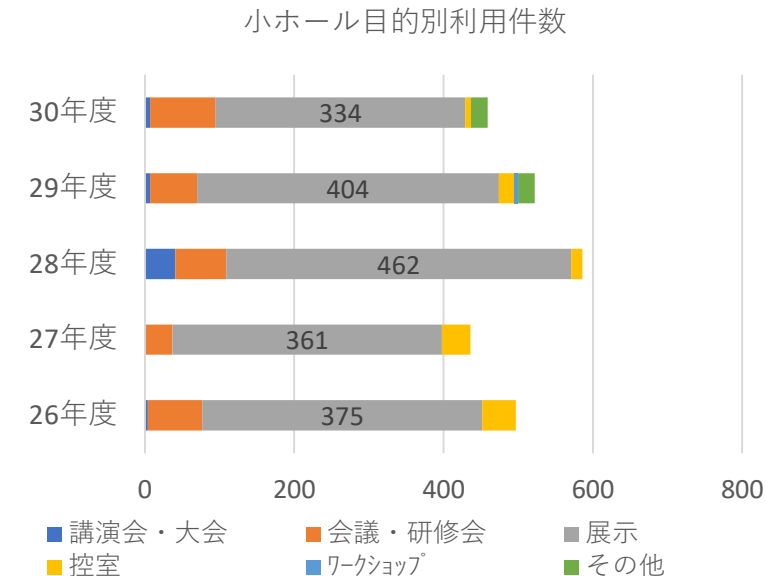
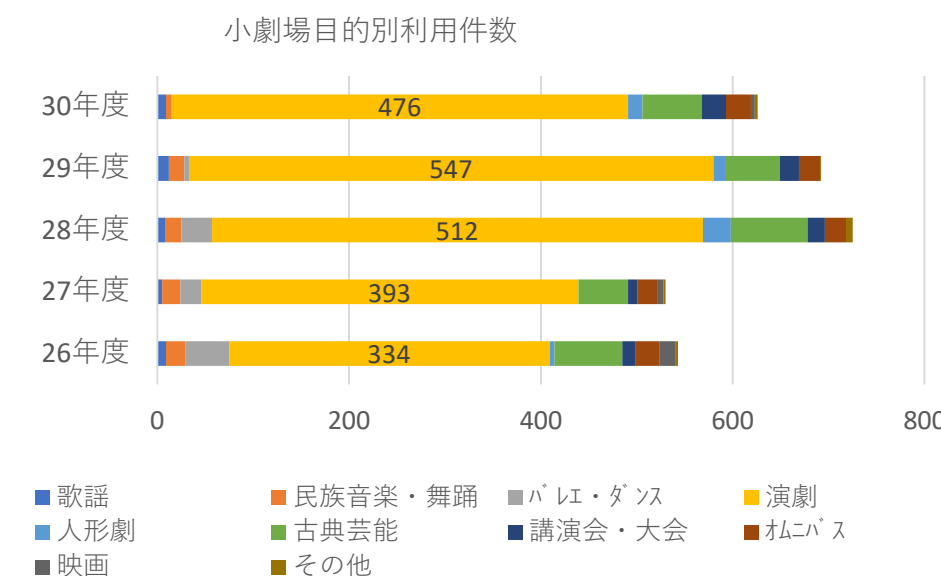
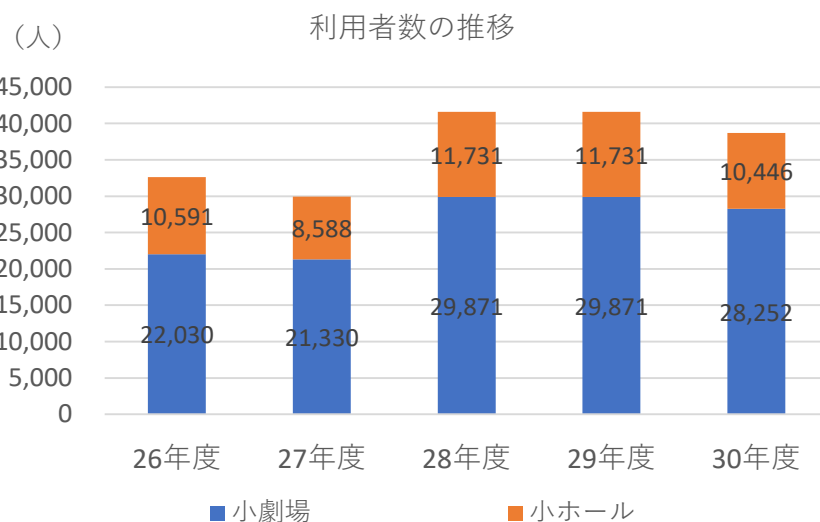
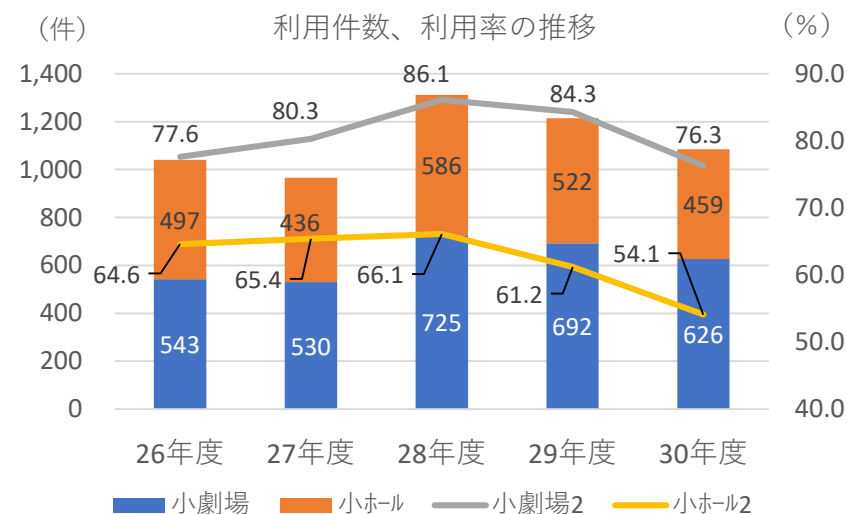
<結城座公演>

- 施設の設立経緯や目的に合わせて、年1～2回の公演。あわせてワークショップなども実施している。
- ◆ ロビーを活用し、施設利用団体の公演情報等を提供し始めた。これを契機に、事業への協力申出などもある。

■その他の事業

- ◆ 小ホールでは、週末を中心に、写真展、書道展、美術展などが行われている。定期的な利用のある団体も見られる。

3 施設の利用状況



5 武蔵野市民文化会館

1 施設概要

- 施設名 : 武蔵野市民文化会館
- 施設管理者 : 武蔵野文化事業団
- 所在地 : 武蔵野市中町3-9-11
- 開館年月日 : 昭和59年11月3日(35年経過)
- 休館日 : 水曜日(祝日の場合は翌開館日)

- 開館時間 : 午前9時00分～午後10時
(9:00～12:00/13:00～17:00/18:00～22:00)
- 保有機能 : 大ホール(1,256席)、小ホール(429席)、
展示室(347㎡)、練習室(第1、第2、第3)、
会議室(第1、第2)、和室(第1、第2)、茶室
- 人員体制 : 理事長1、事務局長1、施設管理8、事業5、
舞台スタッフ、窓口スタッフ

【所在地】
三鷹駅から徒歩13分



2 施設設置の経緯

- 第一期長期計画(昭和46年～)において、市民文化活動の観点から、「大型の市民ホールをつくる」とされた。
- 昭和55年、大小のホールを中心とした「芸術文化の殿堂」とする基本構想が固まる。同時期に、武蔵野市民合唱団が、小ホールにパイプオルガンを設置する署名運動を実施。56年、市議会への請願が採択される。
- 昭和58年8月、文化事業団発足(昭和59年11月、財団認可)。
- 平成20年、JAFRAアワード(総務大臣賞)を受賞(文化事業団)。独自招聘による海外アーティストや新進演奏家の紹介も行うなど、都市近郊の立地を活かした音楽会が身近に楽しめる環境づくりへの貢献が評価された。
- 平成28年4月1日～平成29年4月19日、大規模改修のための休館。

4 主な実施事業

■文化事業団主催事業

- ＜クィーン・アカデミー管弦楽団 ベートヴェン交響曲全曲演奏会＞
- 市民文化会館リニューアルオープン記念特別公演として独自招聘。朝日、読売新聞等の音楽評でも評価される(年間回顧で2017年公演ベスト3に挙げられる)。

＜藤原真理 バッハ無伴奏チェロ・リサイタル＞

- 毎年、誕生日の1月18日に合わせて、市民文化会館小ホールで演奏。21回目を迎える恒例の超人気企画。

＜昼間のお気軽コンサート＞

- 子育て中の方や、高齢者など、夜間の外出が困難な方にも、気軽に聴いていただけるコンサートとして、ワンコイン・コンサートとして実施。令和元年度から。

＜武蔵野シティバレエ＞

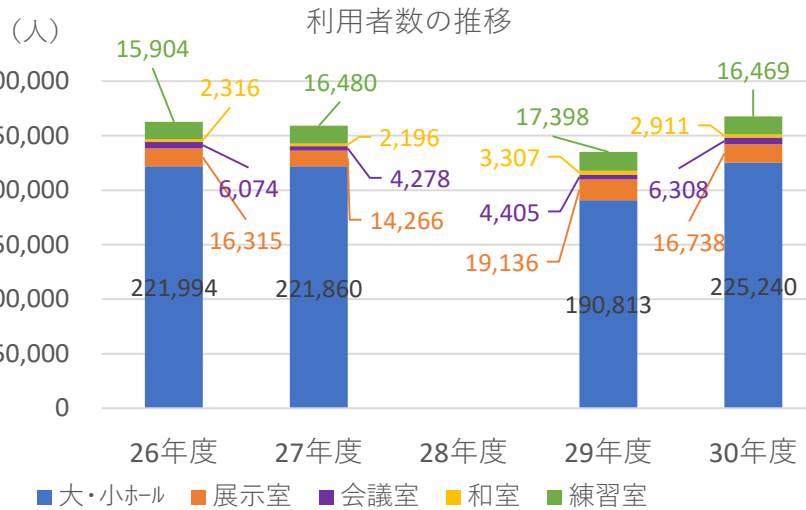
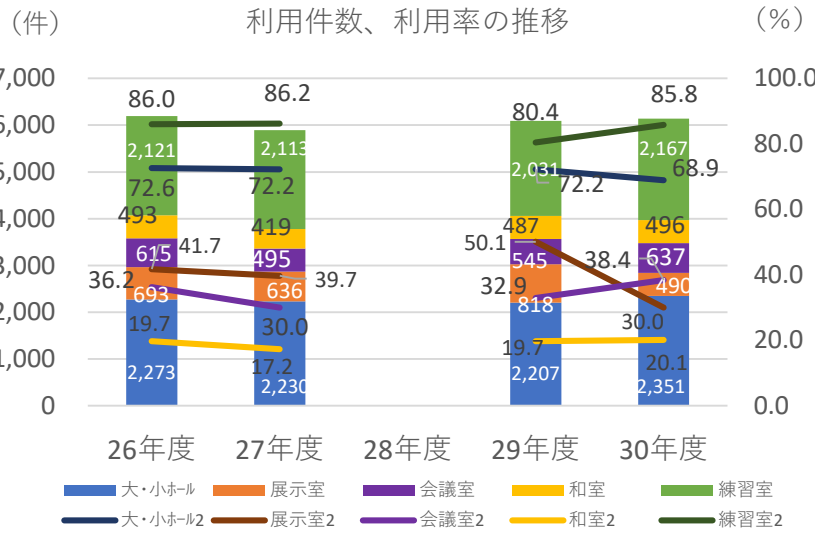
- 市民文化会館竣工記念公演であった市民バレエ公演を契機に、昭和62年1月から、年1回の定期公演を実施。
- 市内の舞踊家等による実行委員会を形成し、市民等から出演者を公募し、上演。

＜パイプオルガンスクール＞

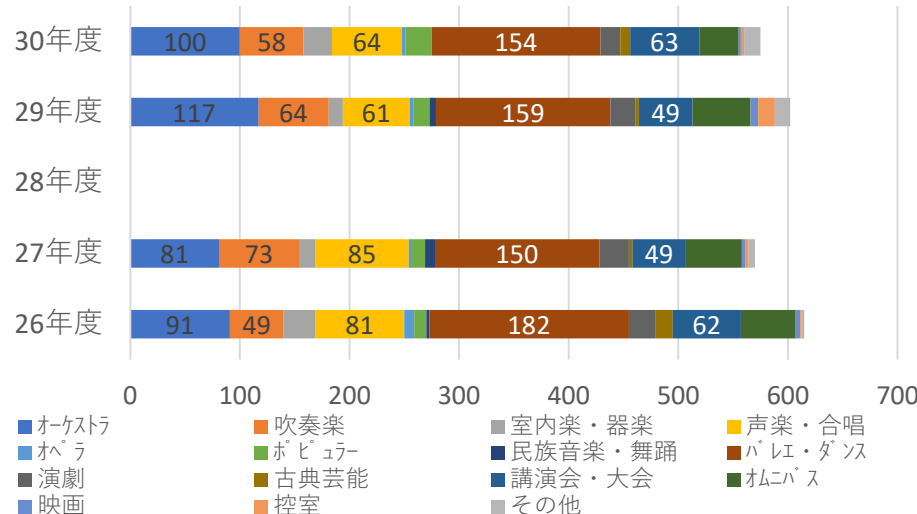
- 平成30年度から、小学校3年生～高校生を対象に、夏休み期間を使って実施。
- 令和元年度から修了生を対象に、パイプオルガン・クラブをつくり、小ホールの空き時間を使って、月1回のレッスンと自主練習を継続。

- ◆ 小ホールは音楽専用ホールで、プロのアーティストがレコーディングに使用することもある。
- ◆ 音響とともに、プログラムも評価され、小ホールで収録された公演が、NHKの音楽番組等で全国放送されることも多い(30年度6公演)。
- ◆ クラシックファンをメインターゲットに、作曲家全曲シリーズ公演などを実施する一方、一般的なコンサートになじみのない方、参加しにくい方をターゲットにしたお気軽コンサート等を実施している。

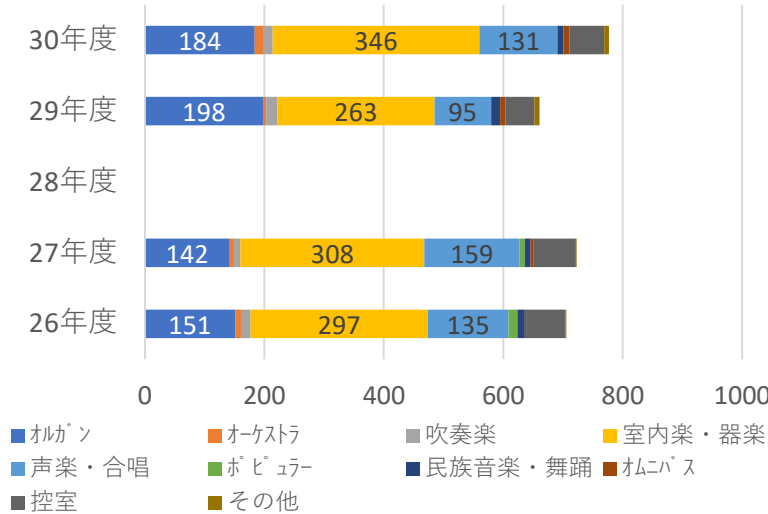
3 施設の利用状況



大ホール目的別利用件数



小ホール目的別利用件数



6 吉祥寺美術館

1 施設概要

- 施設名 : 吉祥寺美術館
- 施設管理者 : 武蔵野文化事業団
- 所在地 : 武蔵野市吉祥寺本町1-8-16 FFビル7階
- 開館年月日 : 平成14年2月2日(17年経過)
- 休館日 : 毎月最終水曜日(祝日の場合は翌開館日)

- 開館時間 : 午前10時00分～午後7時30分
(音楽室) : 午前9時00分～午後9時
(9:00～12:00/13:00～16:30/17:30～21:00)
- 保有機能 : 記念展示室(浜口陽三、萩原英雄)、
企画展示室(市民ギャラリーを兼ねる)、ミュージアムショップ
- 人員体制 : 館長1、学芸員3、施設管理2、受付スタッフ

【所在地】
吉祥寺駅から徒歩3分



2 施設設置の経緯

- 昭和47年、市内に住んでいた日本画家・野田九浦の遺族より作品が寄贈され、それを機に美術館の建設を構想。
- 平成6年4月、浜口陽三作品の寄贈を受け、3～5年を目途に展示施設を設置することを約束した。
- 平成10年に、古瀬公園を建設地として想定したが、敷地の広さや搬出入通路の問題で具体化せず。
- 平成14年2月、F・F市民ホールの会議室部分を改修し、美術館としてオープン。

4 主な実施事業

＜市所蔵作品の概要＞

版画	浜口陽三、萩原英雄、織田一磨 他
日本画	野田九浦、小島鼎子、池上秀敏 他
油彩画	江藤純平、江崎寛友、堀田清治 他
書	上條信山、良寛、貞心尼 他
写真	岡田紅陽、土門拳 他
水彩画等	永沢まこと 他

＜記念展示室＞

- 浜口陽三氏、萩原英雄氏の作品について、年3～4回の展覧会を実施。

＜企画展示室＞

- 開館記念として、所蔵作品お披露目展その1～その6、及び開館一周年記念特別展を実施。
- その後は、所蔵作品を軸に据えた展示を織り交ぜつつ、年間4～5本の企画展を実施。
- 企画展等の関連イベント(ワークショップ、コンサート等)や、地域との連携事業等も実施。

＜市民ギャラリー＞

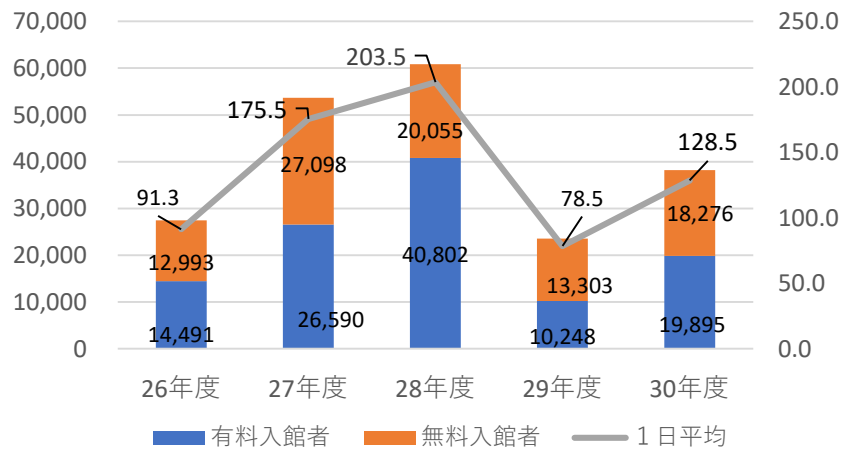
- 3月、7月、11月を、市民の創作発表の場として、有料で企画展示室を貸し出し。

＜武蔵野アール・ブリュット＞

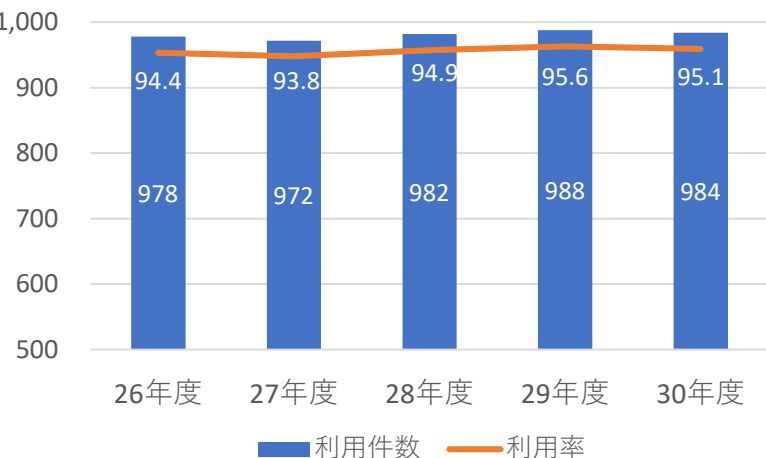
- 平成29年に、武蔵野市市施行70周年記念事業としてスタートし、令和元年に3回目を実施。
- 武蔵野市にゆかりのある人たちが出展・参加し、アートを通じた多様性を大切にする地域づくりを進める取り組みで、市、文化事業団、実行委員会が共催。

3 施設の利用状況

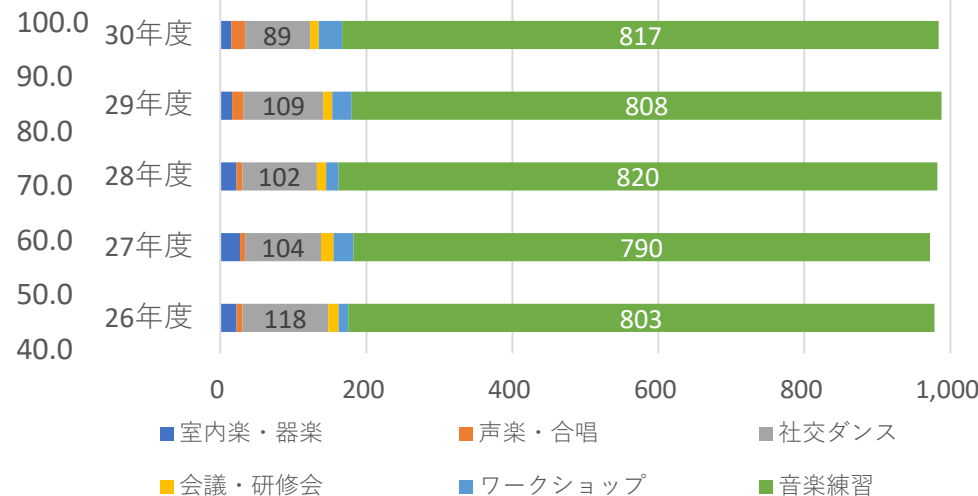
(人) 入館者数の推移



(人) 音楽室利用件数、利用率の推移



音楽室目的別利用件数



7 吉祥寺シアター

1 施設概要

- 施設名 : 吉祥寺シアター
- 施設管理者 : 武蔵野文化事業団
- 所在地 : 武蔵野市吉祥寺本町1-33-22
- 開館年月日 : 平成17年5月21日(14年経過)
- 休館日 : 毎月最終火曜日(祝日の場合は翌日)
- 開館時間 : 午前9時00分～午後10時30分
(9:00～12:00/13:00～17:00/18:00～22:30)
- 保有機能 : 劇場(189席)、けいこ場(77㎡)
- 人員体制 : 支配人1、事業・施設管理スタッフ4、
窓口スタッフ、舞台スタッフ

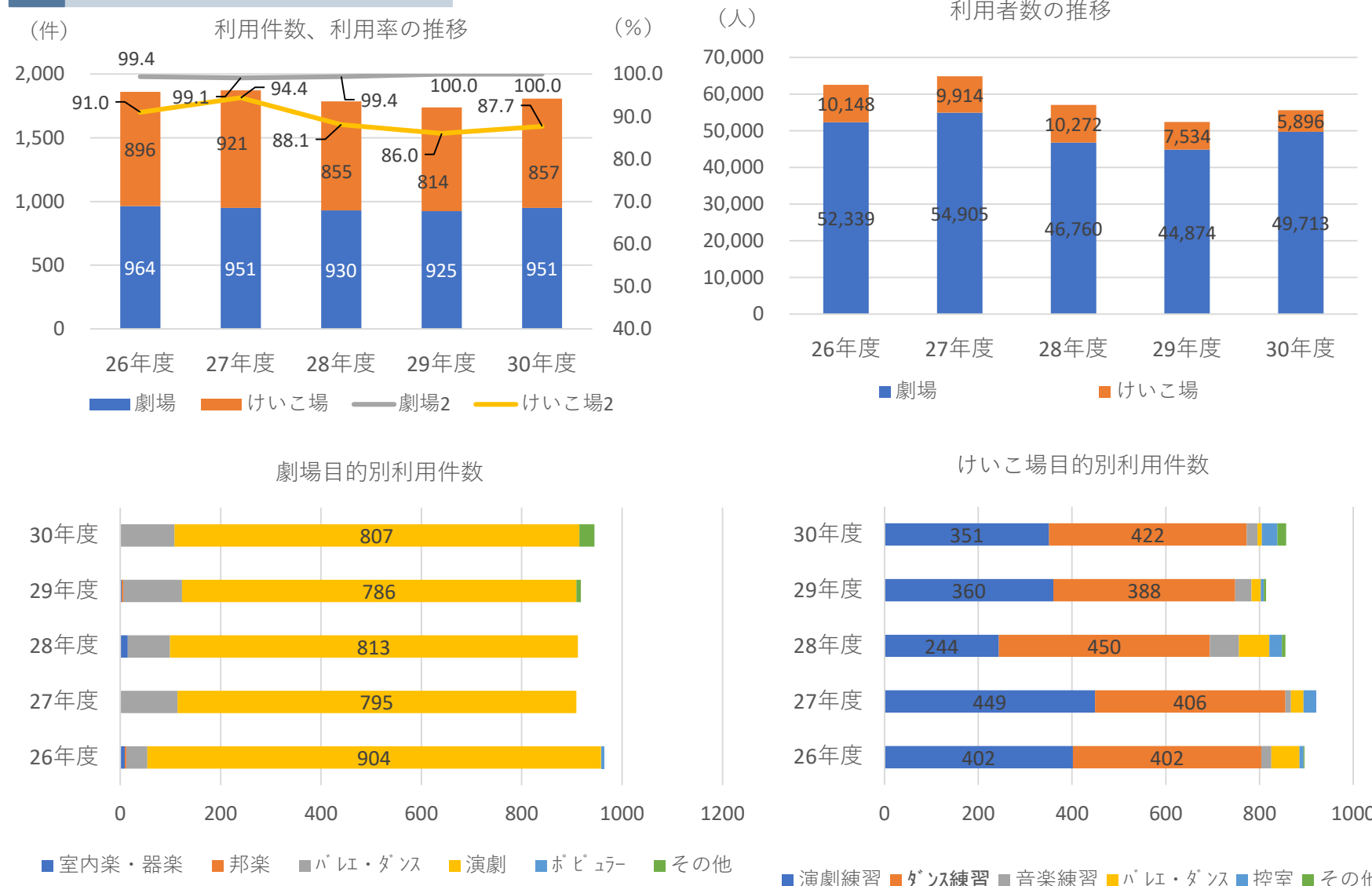
【所在地】
吉祥寺駅から
徒歩5分



2 施設設置の経緯

- 平成13年、吉祥寺東部地区(イースト吉祥寺)の整備方針として、「吉祥寺図書館を一つの核とし、吉祥寺市政センター跡地を文化発信の拠点に利用するなど、都市文化の発信エリアとして新たなイメージの創出を図る」と明示された。
- 平成14年12月、「武蔵野市吉祥寺シアター(仮称)基本計画案」において、「新たな都市文化の発信」、「日常的な都市の活性化」、「市民交流の拡大と深化」を目的に、現代演劇やダンスなど、その時代の文化の新しい方向性を生み出す舞台芸術を中心に提供する劇場とすることが定まった。
- 舞台上演の無い日でも人の流れが生まれるよう、建物沿いにベンチを配したり、カフェを併設するなどの工夫がされている。

3 施設の利用状況



4 主な実施事業

- 文化事業団主催事業
 - <舞台芸術に特化した施設としてのプログラム>
 - 吉祥寺ダンスLAB. ○ 吉祥寺ダンスリライト
 - 貸館ではカバーしにくい、登竜門的な立ち位置での企画。
 - <地域に開かれた劇場としてのプログラム>
 - 吉祥寺ファミリーシアター(親子向けプログラム)
 - 吉祥寺シアター演劇部、ダンス部(中高生向けプログラム)
 - むさしのさんぽライブ(一般向けプログラム)
 - 同時代劇作家WSプログラム
 - オープン・グラインドハウス(公開滞在制作)
 - 地域に対して、吉祥寺シアターがどのような場所であるか、創る場所であるというイメージの発信・共有。

これら主催事業を通じて、吉祥寺シアターの特色を発信し、存在感を発揮していくことを目指している。また、主催事業を通じて、劇場がアーティストだけでなく、観客ともつながっていくことを目指している。

□ その他の事業

※戦略的に、共催・提携・協力事業を実施。一般使用受付に先立ち、吉祥寺シアターのステータスを維持・向上させられる公演を招聘。

○ 青年団『日本文学盛衰史』

吉祥寺シアターで初演。鶴屋南北戯曲賞を受賞。開館当初から、定期的に吉祥寺シアターで公演。

○ 演劇集団円『藍ノ色、沁ミル指二』

読売、日経新聞等の年間回顧に掲載。平成29年度から吉祥寺シアター提携公演。

2018年には、上記2作品の他、範宙遊泳『#禁じられた遊び』(吉祥寺シアター共催)、地点『グッド・バイ』(吉祥寺シアター共催)、可児市文化創造センター『移動』(吉祥寺シアター協力)、などが新聞に採り上げられた。

